



VALQUA GROUP

CSR REPORT 2014

バルカーグループは「ハードとサービス」



◆バルカーグループの使命とCSR

企業の最も大切な使命は、社会の発展に寄与する「価値を創造する」ことにあります。これまでも私たちは、1927年の創業以来培ったシール技術やノウハウ、経験を活用し、さまざまなパートナーと協働して社会の問題解決につながる製品やサービスの開発・提供に注力してきました。

シールエンジニアリングのパイオニアという使命感と、Value(価値)とQuality(品質)に由来した社名に込められた思いの通りに、私たちは単にシール製品を製造・販売するだけではなく、製品とサービスの持つ価値を通じて人々の生活をより豊かにし、社会をさらに良い方向に変えていくことを目指し続けています。

この「Value & Quality」を基本理念とし、さらに従業員に理解し実践しやすくしたものが、企業理念「THE VALQUA WAY」です。これが当社グループのCSRの基盤となっており、そこから生まれたのが当社グループ独自のCSRコンセプト、つまり「Collaboration for Customers(顧客のための協働)」 「Superior Quality(第一級の品質)」 「Rule First(ルール最優先)」です。当社グループのCSR活動とは特別なものではなく、日々の業務活動そのものなのです。

◆ハードとサービスで社会に貢献

当社グループの基幹であるシール製品は、その品質と安全性で、産業界を「縁の下の力持ち」として支え続けています。私たちはこれまで、社会生活に欠かすことのできないシール製品を生みだし、製品を通じて世界中の人々に安全をお届けしてきたと自負し

で社会に貢献します

ております。

しかし、お客さまのニーズの多様化を背景に、私たちは社会に対しさらなる貢献を行うという強い決意をもって「シールメーカー」から脱皮し、「シールエンジニアリングカンパニー」の新たな使命として、社会やお客さまの課題解決をめざす新たなサービスをスタートさせました。

その一つが、バルカー独自のノウハウやスキルを提供する場としてのシール材施工の研修施設開設です。これは、技能伝承やプラントの安全に関わる従業員の教育などを課題とされているお客さまの声にお応えして誕生させたサービスであり、今後は世界中のお客さまへのお役立ちのため、よりグローバルに展開していく計画です。

私たちは、一つひとつの製品の製造と提供を大切にしつつも、社会やお客さまが本当に求めている価値をいち早く察知し、シールエンジニアリングカンパニーだからこそできるハードとサービスの提供で、ステークホルダーの信頼と期待にお応えします。

◆多様な従業員一人ひとりの挑戦が未来をひらく

私たちを取り巻く事業環境がグローバル規模で激しく変化するなかで、企業が継続的に成長し、かつ社会の発展に貢献していくためのカギを握るのは人材です。

グループ人員構成の約半分が海外人材である当社グループには、国籍・民族・性別の壁はありません。グローバルに活躍できる人材の育成に早期に取り組み、研修や制度の充実を図った結果、実行力・変革力に優れた海外幹部や女性管理職が生まれました。さまざまなバックグラウンドを持つ従業員が、あらゆる環境変化にも立ち向かうことのできる強い精神力と情熱に

溢れたバルカー人として育ち、世界を舞台にチャレンジできる機会をつくることが、グローバル企業としての役割だと考えています。

また、多国籍化によって従業員のベクトルがバラバラにならぬように、バルカーは企業理念「THE VALQUA WAY」の浸透を大切にしてきました。その結果、「社会の発展のために」「正堂堂と」「世界中のステークホルダーへ」「独創的技術で」というマインドセットが従業員一人ひとりに徹底してきたと感じています。

◆コンプライアンス遵守

最後に、全ての事業活動の基盤となるのがコンプライアンスです。昨今、企業の法令違反の報道が散見されますが、私は、企業が社会的責任を果たすためには従業員一人ひとりが法令遵守と企業倫理を徹底することが重要と考えています。企業理念の一つである「正堂堂」を従業員一人ひとりが強く意識し、その行動をもって会社としての格＝社格を上げて、当社グループが皆様から信頼し続けられるように努めています。

持続可能な社会の実現への貢献と、バルカーグループのたゆみない成長を目指して、私たちは「THE VALQUA WAY」による価値創造への挑戦を続けていきます。

2015年2月

代表取締役社長 兼 CEO

龍澤利一

バルカーブランドと 社会とのかかわり

こんなところで
バルカーの製品が活躍しています

ふっ素樹脂熱収縮チューブ

医療機器や電子機器、電線などに用いられているチューブで、ふっ素樹脂を被覆することにより絶縁・耐熱・保護・強度を付加させています。



写真提供: Zeus Inc.

ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を活かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。



ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。



高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーとステンレスの一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。



金属ベローズ

薄い金属の板を精密加工でジャバラ状に張り合わせた製品です。金属の持つ信頼性に加え、収縮性を備え、過酷な環境における制御装置部品として活躍しています。



再生シリコンウエハー

半導体の製造過程で使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで清浄度高く新品同様に再生・提供し、環境負荷低減に貢献しています。

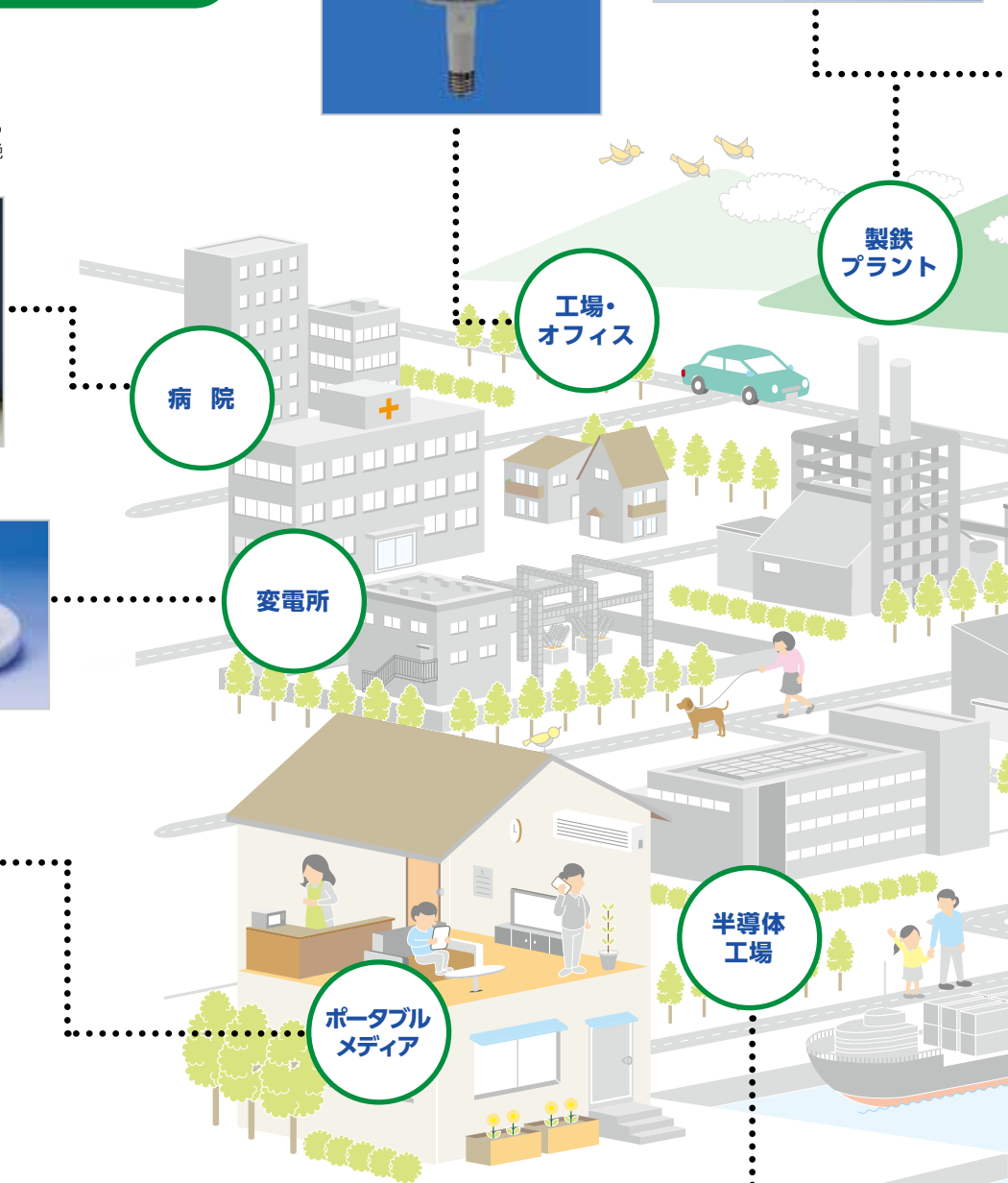
LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインアップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。



高温対応シートガスケット

従来のシートガスケットの性能を大きく上回る画期的な製品で、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。



うず巻き形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧力で運転されるプラントの安全操業を支えています。



回転軸シール

摺動性に優れたシール材で、工作機械やFA機器などの回転部向けに開発されました。



Oリング

動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



シムシール

ショベルなどアームの可動部に組み込まれ、砂などが入るのを防いでいます。



太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生みだし、地球環境の保全と地域への貢献に繋がっています。

建設機械

太陽光発電

自動車

化学プラント

宇宙ロケット人工衛星

船舶

ハーネスシール

ワイヤーハーネスの接続部に絶縁性・耐水性の優れたゴムを使用することで、自動車の安全性向上に役立っています。

メタル中空Oリング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高性能ガスケットで、高温・高圧・高真空などの各種機器に使用されます。

ふっ素樹脂ライニング製品

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を活かして、中を流れる流体の純粋性を保っています。



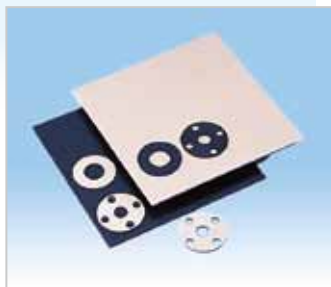
ジョイントシートガスケット

幅広い流体に対応する性能を持つ汎用ガスケットです。船舶・プラントなどのほか、住宅設備などあらゆるシーンで活躍しています。



グランドパッキン

回転軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に液体の流量をコントロールするバルブで使われています。



ふっ素樹脂系ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や精製機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



ライニングボールバルブ

化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



グローバル市場における 上海バルカーの存在を不動のものに

上海バルカーふっ素樹脂製品有限公司 董事 副總經理 沈 毅明

◆プロローグ 晴れやかな授賞式で

2012年11月、上海バルカーへ中国ふっ素樹脂専門委員会より、中国のふっ素樹脂加工業界に貢献した企業に対して与えられる「優秀企業」が授与されました。それと同時に、私は「優秀個人」という個人賞をいただくことができました。晴れやかな授賞式のなか、このように立派な賞を受賞できるまでに私を育ててくれたバルカーグループに感謝しながら、17年間のバルカー人生を振り返っていました。

◆バルカー人生の始まり

私のバルカー人生は、1997年4月の上海バルカー入社から始まりました。大学を卒業し、ふっ素樹脂加工の研究所で研究開発に従事した後、大手日系商社でプロジェクトを担当していた頃、この商社と繋がりのあった上海バルカーから入社の誘いがありました。

しかし、当時の日系商社は待遇も良く将来の不安もなかった一方、上海バルカーは設立したばかりで将来の見込みが不透明な状況。大変迷いましたが、当時、頻繁に中国に出張されていた瀧澤海外統括部長(現社長)から直々に「ぜひ上海バルカーに来て一緒に仕事をして欲しい」という熱心なお誘いを何度も頂いたことから、入社を決意しました。

この出会いと決断がその後の私の人生を大きく変えることとなりました。今、振り返っても本当に良い決断だったと思っています。

◆学習と成長

実際に上海バルカーに勤務したところ、優れたふっ素樹脂のメーカーであることが分かり、上海バルカーが好きになりました。

また、私を新たなステージへと導いてくれた瀧澤社長には、その後も中国出張の度に指導を受けました。立場を越えて本音でお話することが出来る関係となり、疑問や問題点の相談に対しても親身な指導を受けましたし、場合によっては「まずは自分で考えてみなさい」との啓発的な指導も頂きました。瀧澤社長から直接受けた経営理念、法令遵守、地域社会への貢献、会社の経営、短期・長期人生目標設定などのさまざまな指導は、私自身の成長に大きなプラスであったと実感しています。

大きな転機が訪れたのは、2003年のことでした。グループ会社として販売会社「バルカー(上海)貿易」<以下、上海貿易>が設立され、そこへ転属するよう打診を受けたのです。ふっ素樹脂のモノ作りに興味があったので生産会社である上海バルカーへ入社したのに、販売の仕事ができるのだろうか…私はその仕事が本当にしたいのだろうか…と、とても悩みました。

しかし、ふっ素樹脂とバルカーを好きな気持ちこそが大切であり、販売の経験も今後にとって良い経験になるだろうと覚悟を決め、上海貿易への転籍を決めました。

当時の上海貿易におけるふっ素樹脂売上は、主力であるシール製品の1/6程度しかありませんでした。私はふっ

素樹脂製品の販売責任者として、現状を打破し、売り上げを飛躍的に伸ばすにはどうすればよいのかと悩み続けました。

これを解決する効果的な方法の一つは、中国式の商売方法であるリベート方式(売上の数パーセントを現金で購買者に支払う)を採用することですが、これはバルカーの企業理念に反します。

しかし、売上拡大も管理者の任務として必須です。中国におけるコンプライアンス遵守の徹底と売上拡大の両立の難しさに悩みましたが、結局、その悩みから私を救い、正しい行動を選択させてくれたのは、企業理念「THE VALQUA WAY」に記された“コンプライアンス遵守”と“正正堂堂と”という言葉でした。

この言葉をとにかく信じ、ひたすら実践すること、すなわちコンプライアンス遵守に基づいた販売方法を貫いた結果、悪い影響は少なく、逆にお客さまから当社がより信頼されるという良い効果が出ました。中国独自の慣習に流されずグローバルスタンダードを実践することは、遠回りのように見えても最終的に良い結果を得られることを実感し、ますます私は「THE VALQUA WAY」の深い理解と実践を追求するようになりました。

◆董事・副総経理への就任と 新たなジョイントベンチャー

バルカーグループでは、そこに集う人材を、“国籍・人種・宗教・性別・年齢等の垣根を超えて共通の企業理念「THE VALQUA WAY」により結ばれた「バルカー人」と定義しており、私もその一人としてとても誇らしく感じています。その考え方は人事制度と人材登用にも繋がっていますが、これは日系企業には珍しいことで、私たちバルカーで働く外国人にとっては本当に素晴らしい、やりがいを感じられる制度だと思っています。

2008年5月、私はバルカー上海貿易の董事・副総経理に任命されました。17年前、上海バルカーに入社した時には考えもしなかった出来事です。もちろん会社に勤める以上、上の役職を目指すことは当然ですが、入社当時は日系企業における外国人従業員の働き方について限界を感じていたことも事実であり、ある程度の役職以上にはなれるはずがないと諦めていました。

それが董事・副総経理に任命されたのです。国籍の違う私の努力と能力を会社が認め、将来を期待してくれていると実感できたことが最大の喜びでした。この感動は、自国企業に勤務する社員には決してわからないことだと思います。会社からの信頼を強く実感し、やる気が倍増したことはもちろんですが、それ以上に会社に対し責任を持たなければならないというプレッシャーを強く感じました。

2010年に上海バルカーは、フッ素樹脂の原料メーカーで



もあるダイキン工業株式会社とジョイントベンチャーを組んで新たなスタートを切り、生産から販売までを担当する会社となりました。それと同時に私も上海貿易の董事・副総経理から、上海バルカーの董事・副総経理に任命され、販売部門責任者となりました。

実はこの新会社設立は、私には想像もできなかったことでした。そもそも、普通では構想することさえしない日系原料メーカーと日系加工メーカーとのジョイントベンチャーを中国で実現させたことに非常に驚き、それにより原材料から加工、そして販売までの一貫体制が構築され、一気に市場攻略の体制が整ったことには目の覚める思いでした。このような構想を実現させ、我々にさらなる大きな夢とやりがいを与えてくれた瀧澤社長に感動しました。

◆今後の目標と夢

このような期待とチャンスを与えてくれたバルカーグループへの恩返しをどのような形で具体化するかが、今後の私の大きな責任だと思っています。直近の売り上げ目標達成はもちろんですが、中長期的にグローバル市場における上海バルカーの存在を不動のものにして次世代に引き継ぐことが、董事となった私の大きな責務です。

この責務を果たすために、次世代幹部を育成すべく愛社精神を持って、能力のあるローカル幹部に対して積極的にOJTを行い育成するつもりです。また自分自身に対しては、今まで以上に勉強し、より高い視野でグループ最適の視点に立って考え行動していこうと思っています。

私は、10年後の上海バルカーを、世界に通用するふっ素樹脂をメインとしたエンブラの総合メーカーとしてさらに大きく成長と発展させるよう、自らの可能性を信じこれからも頑張っていきたいと思っています。

(本稿は本人の日本語執筆によるものです)





特集②

地球に優しい技術で環境問題の解決へ

上海バルカーの製品力とガニフロン社の環境に優しい廃液処理技術が融合

地球規模で温暖化や水質汚染、土壌汚染などの環境問題が取り沙汰されるなか、多くの企業が環境に配慮した取り組みを実践し、生産性の向上と環境保全の両立を推進しています。

こうした状況のもと、機能樹脂製品を中国国内で生産している「上海バルカーふっ素樹脂製品有限公司(以下、上海バルカー)」と、ふっ素樹脂成形メーカーで環境に優しいふっ素樹脂表面処理技術を持つイタリアの「ガニフロン社」が共同出資して上海バルカーの敷地内に設立し

た「アドバンスト フロン テクノロジーズ社(AFT社)」が2013年12月より本格的に稼動を開始しました。

ふっ素樹脂フィルム・シートの特性とガニフロン社との出会い

上海バルカーで生産しているふっ素樹脂のフィルムやシートは、電気絶縁性・潤滑性・耐薬品性などの特徴が評価され、電子材料から各種プラント配管、タンクなどの設備関連まで幅広い場面で使われています。しかし、ふっ素樹脂は難接着性であるため、親水性や他の材質との接着性が求められる用途では、薬品で表面処理(改質)を施して接着性を持たせる必要があります。

そのような需要に対し、従来は上海バルカーで生産したシートに、日本の協会社で「アンモニア法」と呼ばれる技術を用いた表面処理を行い、対応していました。しかし、日本国外のお客さまに製品を納入するにあたって、一度日本を経由する方法は流通・コスト面で非効率であることから、中国に表面処理施設を建設する計画を進めました。

また、「アンモニア法」は生産効率に優れた処理方法ですが、薬品を洗い流すため大量の廃液が出ます。当時、中国の環境規制が厳格化されつつあり、「アンモニア法」ではその規制をクリアできないため、環境に配慮した処理方法はないかと今後の方向性を模索していました。

そのようなタイミングで、バルカーの担当者が偶然出会ったのが、環境に優しい表面処理技術である「ナフタレ

ナフタレン法による表面処理を施したふっ素樹脂フィルム



ン法」を持ち、欧州のみならず中国への本格進出の道を模索していたガニフロン社の営業担当者でした。

この出会いがきっかけとなり、中国市場で長年ふっ素樹脂製品を生産してきた上海バルカーの技術力と高い品質に、ガニフロン社の処理技術が結び付いて、双方の強みを活かしたAFT社が誕生しました。

AFT社における表面処理技術と 3つの環境負荷低減

AFT社において実施する表面処理は、ナフタレン+金属ナトリウム+溶剤を用いるナフタレン法です。特徴としては、

- ・生産速度は遅くなるが、色調は安定しやすい
- ・使用する薬品は経年劣化しにくい品質であるため長期の保管が可能である
- ・常温での取り扱いが可能であることから、作業が容易である

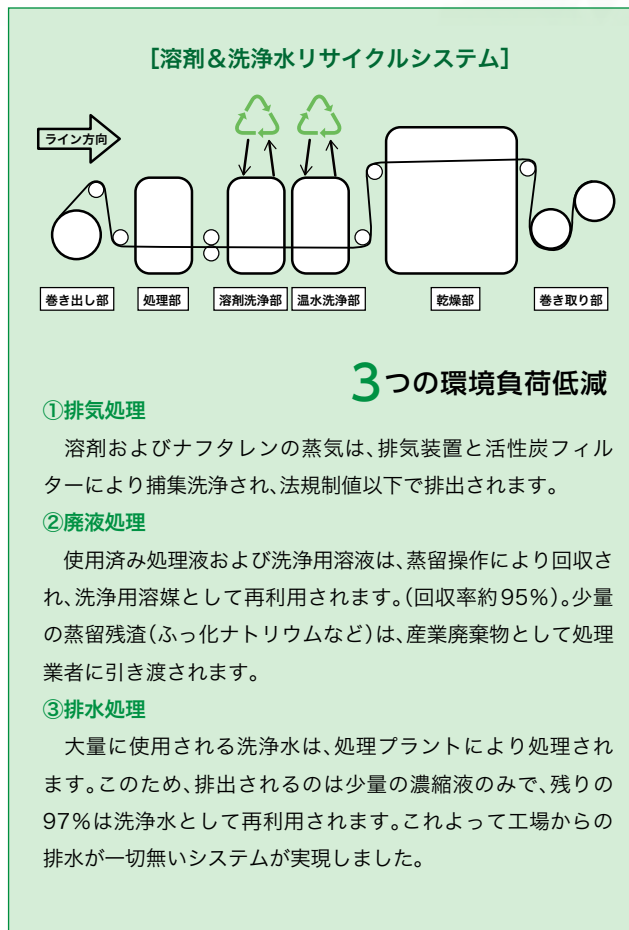
などが挙げられます。また、施設への投資規模についても、アンモニア法と比較して約半分ほどで済むというメリットもあります。

中国初の環境配慮型設備で 環境に優しいモノづくりを追求

排気・廃液・排水対策に万全を期したふっ素樹脂表面処理工程に、中国で初めてという排水を外部に出さない「クロードシステム」(右図参照)を採用したAFT社の新設備は、中国における厳しい環境規制をクリアしており、地域や従業員に対しても安心・安全を約束しています。

また、バルカー製品の高い品質と信頼性に、製造過程における安全性の高さが加わったことで、コンプライアンスを徹底している企業からの引き合いがきています。

今後は、AFT社と上海バルカーが連携しながら、自社製品の販売と同時にOEM(顧客ブランド製品への表面処理)の依頼にも積極的に対応していくとともに、事業



活動を通じて環境負荷低減の取り組みを積極的に普及させ、企業理念でもある「環境に優しいモノづくり」と「地域社会との共生」を実現することで、地球環境保全に貢献していきます。

Voice



ガニフロン社
テクニカルディレクター
Massimo Villano氏

持続可能な社会を実現するため、社会問題の解決策の必要性は高く、グローバル規模で最も深刻で重要な課題です。当社では環境に優しいだけでなく、人間に対する安全性にも配慮した“持続可能な社会の実現へ寄与する開発”を行っています。また、環境保護に対する責任と義務を果たすため、製造プロセス・製品・サービスの視点で、さまざまな対策を用いて環境への負荷を最小限にしています。太陽光発電や資源の再利用など、環境対策の取り組みにも積極的です。

同じような意識・対策を行う企業とのパートナーシップ構築に優先して取り組んだ結果、ガニフロンはバルカーとAFT社を設立いたしました。同社の表面処理設備は、排水の再利用や溶剤の蒸留による再生を可能とする効率的な設備です。

今後ガニフロンとバルカーの協力体制は更に深まり、両社の技術を融合することによって、環境負荷を減らし、健全な社会の成長に貢献していくことになるでしょう。

特集③

シールエンジニアリングで顧客の期待に応える

バルカーグループは、シールエンジニアリングのパイオニアとして、これまで多くの製品を世に送り出し、製品とサービスの品質を追求し続けています。

お客さまのニーズが多様化するなか、真にお客さまが求められているサービスの提供とは何かについて、担当部署の異なる3名がクロストークしました。

お客さまの抱える課題解決のために 生まれたサービス

小林 カーン君と私は開発部門の所属でしたから、過去は高品質な製品を提供することによって、お客さまのプラントや装置などの操業を製品性能の向上で支えていくことが長年の業務でした。それを松下さんの技術サービス部門が製品説明という形で展開していく。我々の役割分担はそんな感じでしょうか。

松下 そうですね。新製品の説明会を実施して、お客さまの装置やプラントで評価採用をいただく。開発部門とは、その後の使用後品の分析の段階で評価依頼をする時の接点なども多いですね。

カーン お客さまが良いシール材が無くて困っている時や、トラブルなどの対応も技術サービスと一緒にやることが多いです。

小林 ただ、近年のお客さまの要望は、高機能製品に対する要求もさることながら、技能伝承や海外における労働者の教育など、従来とは違った要望や課題ができて我々も今までのやり方を少しずつ変えてきたわけですね。

カーン そうです。プラントの安定的運転や安全確保

のためには、正しい材質選定と正しい施工スキルが必要ですが、悩んでいるお客さまは多いです。

松下 私が製品セミナーを実施する際も、当社製品情報の提供だけでなく、施工管理などの質問を受けることが多いです。

サービスの新たなカタチ

小林 お客さまのそのようなご要望や課題を背景に、さらなるお役立ちのカタチを模索し始めたのが2011年くらいから。自分たちの持つノウハウやスキルを再確認するところからのスタートでしたね。

カーン その結果、バルカーが1927年の創業以来、独自に蓄積してきたノウハウと数々の施工現場を見てきた知見を、お客さまのご要望に合わせた形で提供する場として、体験型の研修施設を立ち上げました。

シールメーカーとしてお客さまとともに積み重ねてきた歴史と技術の再確認という意味で、まずは我々がすごく勉強になりました。

小林 “当社のシールエンジニアリングとは何ぞや”ということ突き詰めていく作業でもありましたね。

松下 研修内容を創り上げるには苦労もあったのではありますか？

カーン 過去にさまざまな場面で実施した講習のテキストや情報を会社中から集め、それらを参考にしてお客さまの視点に立った分かりやすいプログラムになるよう意識して作りあげました。

小林 今後は、施設を利用されたお客さまからいただくリ



H&S事業担当 参事
小林 幸雄

アルなご意見を重要なヒントに、講習内容はもちろんのこと当社製品や技術についても進化をさせていきたいですね。

松下 そう思います。現場でも、既存のバルカー製品ではお客さまのご要望を十分に満たしていないことがまだまだあります。「こういった問題解決につながる製品をお客さまが必要とされている」ということを開発部に伝え、営業と開発がうまく連動して問題解決に繋げることを意識しています。

お客さまの課題をリアルタイムに解決する「Seal Quick Searcher」

小林 現在、当社がwebサイトで公開している『Seal Quick Searcher(シール・クイックサーチャー /以下、SQS)』も、お客さまのご要望にお応えした、製品選定などをサポートする新たなサービスですね。こちらの評判はどうか？

松下 SQSは2014年4月からスタートしたのですが、製品の仕様(流体、温度、圧力など)・キーワード・産業分野など、多様な切り口で当社の推奨製品を探せるので、今すぐ製品を選定したいというお客さまにたくさんご利用いただいています。視覚的に判りやすい作りになっているところが特に好評です。

カーン グラフの中をクリックして温度と圧力が入力できる仕掛け、あれは面白いと思います。

小林 SQSは簡便性に特化したサービスですからね。お客さまのニーズはさまざまですから、我々は幅広い視点からサービスを提供していく意識を常にとっておく必要がありますよ。

“シールエンジニアリングカンパニー”を実現してお客さまに感動の提供を

小林 お客さまのニーズが多様化する今日では、製品の提供だけでは、お客さまに一定の満足しかお届けできません。

我々がお届けするのは“シールエンジニアリング”で、その提供形態は製品だけに留まらず、今後はサービスとしての提供もより一層求められると考えています。バルカーが「シールメーカー」を超えた「シールエンジニアリングカンパニー」と呼ばれるようにならなくてはと思います。

松下 それには、お客さまと直接やりとりすることの

多い私などの部門が、ニーズを正しく汲み取り、社内で発信していくことが大切だと思っています。それが、製品やサービスの開発につながり、お客さまの生産活動がスムーズかつ安全に運ぶようになる。製品を通じた持続可能な社会づくりへの貢献に繋がると考えています。

カーン その通りですね。私も今後研修施設の講師としてお客さまと一緒に仕事をしていきますが、生産効率や安全性向上だけでなく、更に環境負荷の低減や品質向上などにも貢献したいです。

「本当に良いものは、多くの場面でメリットを生む」、そういう意識のもと、自分のミッションを追求していけば社会の発展につながっていくと思っています。

小林 世界中のステークホルダーへ価値のあるハードアンドサービスを提供し、感動の提供につなげていくことが我々の究極のミッションですね。



シール開発部 開発グループ
カーン・マクスド・ウッディン



シール営業本部 東日本営業部
松下 明日香

Seal Quick Searcher (シール・クイックサーチャー) のご紹介

多様な切り口で当社推奨シール製品を幅広く検索できるサイト。お客さまが利用しやすい形式で選定結果を提供できますので、技術資料作成に利用いただくことができます。

製品ラインアップは、ガスケット関連製品、エラストマー(ゴム、ウレタンなど)製品、機能樹脂製品など。英語版・中国語版についてもサイトを開設しています。

「Seal Quick Searcher」は、下記URLもしくは当社ホームページトップ画面よりご利用いただけます。

<http://www.seal.valqua.co.jp/seal/>



グローバル各社のCSRへの取り組み



タイバルカー

孤児院への支援

2012年から、バンコクから車で3時間強の山奥にある孤児院を慰問しています。この施設は、国からの補助が届きにくいという問題を抱えています。慰問に先立ち我々は、工業団地周辺での募金活動を行い、従業員からの募金と合わせて寄付金としました。また、日本のオフィスに呼び掛けて集めた古着や生活物資の寄贈を行いました。



<タイバルカー> シンガポール支店

ノンアスベスト化による環境配慮

アスベスト製品の取り扱いに関しては、日本やシンガポールのみならず、世界的にさまざまな規制が強化されていますが、マレーシアとインドネシアでは法規定が無く任意となっています。そこで我々は、お客さまへのアスベスト製品使用のリスクや廃棄方法の説明、ノンアスベスト製品への置換えなど、顧客視点に立ったアドバイスをを行い、ノンアスベスト化を促進しています。



台湾バルカー 台湾バルカー国際

全従業員対象の消防訓練実施

年2回、二社合同で消防訓練を実施しています。消火やホース接続および放水などの実技訓練を行うとともに、災害時を想定した避難誘導訓練を実施。また、出火のメカニズムや火災発生時の対処方法、日ごろの緊急対応についての教育訓練も実施しています。地域における災害発生防止のためにも、従業員の日ごろの防災意識と能力を高めていきます。



バルカーアメリカ

セクシャルハラスメント防止・対策研修への参加

米国ではセクシャルハラスメントに対する意識が高く、日本ではハラスメントの対象外となりそうな行為でも該当行為と見なされるため、従業員に対する注意喚起・意識向上の観点から外部研修への参加を奨励しています。従業員が現地企業としての基準を身につけることで、よき企業市民の一員として地域社会へ貢献したいと考えています。



バルカーコリア

平澤義勇消防隊への参加

平澤工場が所在する工業団地の自治消防団に、自発的に3名の社員が所属し、火災発生時の緊急支援や車両統制などを行うための防災力向上訓練に定期的に参加しています。地域の安全・防災の担い手として、地域に根ざした貢献活動を社員自らが推進しています。



バルカーグループでは、企業理念「THE VALQUA WAY」をグローバルで共有しつつ、国や地域ごとに異なる課題やニーズに応じたCSR活動を実践しています。各社の活動のうち、代表的なものをご紹介します。

中国三社

中国三社による合同募金活動

我々はバルカー人として、中国に住む企業市民として、可能な限り社会への貢献を果たすことが重要と考えています。中国三社で構成する“チームチャイナ”は社会貢献に対する意識が非常に高く、大規模災害発生時には即座に社内での義捐金募集活動が始まります。また、ユニセフへの募金も日常的に実施しています。こうした企業文化は我々の誇りです。



バルカーシール 上海

松江区の献血活動に協力

シール上海が所在する松江地区が実施している無償献血活動に、毎年積極的に協力しています。血液不足が深刻化する中国において、患者さんの尊い生命を救うことに繋がる献血は、医療を支える大切な社会貢献活動です。

今後も従業員の理解のもと、献血の輪を広げていきます。



上海バルカー

工場照明をLED化

省エネ活動として工場内照明のLED化を推進し、2013年度までに2,664本をLED照明に交換、従来比57%の省エネを達成することができました。この成果に対し、上海市松江工業局省エネルギー課より省エネ貢献企業として認定を受けました。これからも、事業活動を通じて環境配慮を実現することで持続可能な社会の形成に貢献していきます。



バルカー（上海） 貿易

環境と安全の保全に貢献

中国では、環境や安全の面からアスベスト関連規制が強化されつつあり、既に一部産業ではシール製品の完全なノンアスベスト化が義務付けられています。そのように社会的要求が変化するなか、バルカーではノンアスベスト製品の普及に向けて活動しています。今後とも業界の先頭に立って、中国の環境・安全問題の解決に貢献していきます。



バルカーベトナム

2013年世界クリーンアップキャンペーン参画

バルカーベトナムでは、ハイズン環境局とタイアップして、ハイズン市近郊の地域住民との環境改善宣言や環境改善を目的とした植樹や清掃活動などを2012年より行っています。本年度は小学校でのクリーンアップ大会に参加するとともに、近くの農業用水の流れを改善するため、生息する水草の除去作業を住民の方々と一緒に行いました。





人材育成と職場環境づくり

バルカーグループは、経営資源のなかで最も価値のあるものとして「人材」を捉え、人材育成をグループ戦略のひとつに据えて積極的に人材開発に取り組むとともに、一人ひとりの社員が、個性や働き方に合わせて能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。

また、全世界の社員が、バルカーグループ共通の企業理念である「THE VALQUA WAY」の実践を通じ、「WAY」への理解と自らの存在価値を高めながら、顧客や社会への価値提供につなげています。

グローバル化に向けた人材育成

グローバル化に対応するため、高いスキルとマインドを持つ社員を対象に、階層別の育成強化を進めています。また、毎年創業記念日の1月21日には「THE VALQUA WAY」の実践内容を発表する場として、全世界の拠点から選ばれた代表者による発表会を催し、バルカーグループがグローバルビジネスを展開する上での礎でもある「THE VALQUA WAY」を再認識し、グループ社員の交流を通してグローバル意識の向上に努めています。

グローバル 人材育成 プログラム



ベトナムで実施したバルカー人養成道場

〔新入社員向け海外研修〕

グローバルにビジネスを推進できる人材の育成を目指し、早期にグローバル感覚を身につけさせるため、グローバル社員を目指す新入社員を対象に海外研修を行っています。海外拠点に派遣して、国民性・文化・言語などの違いを体感させ、国際社会を生き抜く力を養います。

〔バルカー人養成道場〕

新入社員を対象に、グローバルに対応できるバルカー人を養成するため、2014年はベトナムに場所を変更して5泊6日の合宿研修を行いました。風習や文化が異なり、言葉も通じない環境のなかで、ミッションを達成するために自ら考え、行動し、完遂する力を鍛錬する場となりました。

〔海外幹部向け来日トレーニング〕

海外拠点の幹部社員を選抜して、日本へ招集し集中トレーニングを実施しています。グループ一体感の醸成やロイヤリティの向上のみならず、グループ幹部としてのスキル・マインド両面での素養を高めています。

〔海外拠点における人材育成〕

○**中国で……**2007年に中国人材開発センターを上海に設立し、現地に適合した教育体制の構築を目的として「底上げ」と「選抜」の両面から教育を行っています。ものづくりの現場力を一層強化するため、現場監督者層を含む現場ワーカーの研修を行い、本年は具体的な成果を上げる内容に移行しています。

○**ベトナム・タイ・韓国・台湾で……**現地化に向けて、現地社員の幹部育成に取り組んでいます。部長・課長層の育成を継続的に行い、社内教育のみならず、経営幹部として必要なスキルについて現地外部機関を活用して育成を進めています。

多様な価値観と個性を尊重し、一人ひとりが輝ける環境へ

バルカーグループは、国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、世界中の社員一人ひとりが持つ価値観や個性を尊重し、仕事へのやりがいや充実感を通じて多様な人材が持ちうる力を最大限に発揮できる職場環境づくりに努めています。

●キャリアリターン制度(再復帰制度)

やむを得ない理由で退職する社員が、慣れ親しんだ職場環境で過去の経験や知識を活かす仕事に復帰できる制度を導入しています。

対象となる退職理由を結婚・出産・育児・介護のみならず、海外留学や配偶者の転勤にまで拡大し、グローバル環境下における自己研鑽や人材流動化に対応しています。

●子育て支援(育児休業や育児短時間勤務)

育児休業は、法定義務の1歳6ヵ月となっていますが、法定義務を上回る2歳6ヵ月に達する日まで取得できるようにしています。さらに、育児休業終了後も安心して育児ができるように育児短時間勤務の取得限度を子供が小学校3年生に達するまでとするなど、こちらも法定義務を上回る措置としています。

バルカーは、今後も仕事と育児などを両立できる職場環境を整備し、両立支援の充実を図ることで、多様な人材が能力を十分に発揮できる環境づくりを進めます。

●勤務地限定制度

生活観や就労観が多様化するなか、柔軟なワークライフスタイルを提供するため、勤務地の限定・非限定を明らかにして、将来のキャリアビジョンを明確にする制度を導入しています。

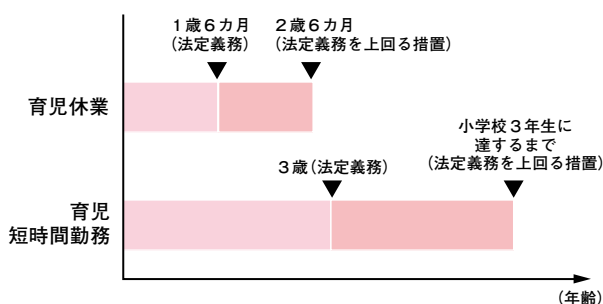
勤務地を限定しない人には、多くの経験を通じたキャリアアップが期待され、勤務地を限定する人には、ライフプランの実現を通じて充実した職業生活を送るとともに、その地域でのスペシャリティーとしての活躍が期待されています。

●障がい者雇用の促進

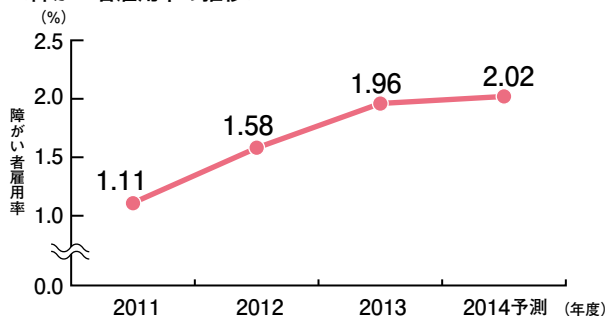
バルカーは地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れ、働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

企業実習や入社後に一緒に仕事をするなかで、健常者も異なる価値観や立場に触れ、お互いを思いやり尊重しあう大切さを学んでいます。

<育児休業・育児短時間勤務制度>



<障がい者雇用率の推移>



Voice



シール営業本部西日本営業部
カスタマーサービス課

宮本 佐保里

周囲の理解とサポートのおかげで育児と仕事を両立

2人の子どもの出産・育児のため、育児休業を2回取得しました。2人目の復帰後、長男が体調を崩しがちだったため、上司には仕事量の調整をもらい、また、職場の仲間からの温かいサポートにも大変感謝しています。会社の制度の充実に加え、このような職場の理解が、二人の子どもがいながらも勤務を続けていられる理由です。

他の事業所に研究員として勤務する主人は、毎朝子どもたちを保育所へ送り、休日も近所のお友達も含め一緒に遊んでくれるなど、育児に積極的に参加してくれています。また、母の協力も大きな支えです。

現在は育児短時間勤務制度を利用して勤務しています。子どもが1人から2人になるとことは、育児にかかる時間や労力が2倍ではなく、2の二乗である4倍になるということをひしひしと実感していますが、お客さまのお役立ちにつながるこの仕事を、誠実に精一杯行っていきたいと考えています。



環境への取り組み

バルカーグループは、地球環境の保全が人類共通の最重要テーマのひとつであると認識して「環境憲章」を定め、環境活動を推進しています。

環境憲章および環境保全推進体制

<環境憲章>

■ 環境理念 ■	■ 環境方針 ■
バルカーは経営理念に基づき 地球環境の保全が人類共通の 最重要テーマの一つであると認識し、 企業活動のあらゆる面で 環境の保全に努め、企業の成長および 持続可能な社会の形成を目指します。 VALQUA ENVIRONMENTAL CHARTER	環境理念に基づき、次の方針を定め、 社員一人ひとりが良き地球市民としての 行動をとり責任を果たしていきます。 1. バルカーグループ全体の環境管理システムを構築し、 継続向上に努め、運用を徹底なものとす。 2. 国内外の法律、規則、条約、協定、などを遵守すると ともに自主基準を設け一層の環境保全に努める。 3. 他産業及び社会との連携を図り、環境に配慮した 商品の創造及びサービスの提供に努める。 4. 事業活動の全ての領域で、3R (Recycle, Reuse, Reduce) の徹底推進をもって、省資源、省エネルギー、廃棄物の 削減及び汚染リスクの回避に努める。 5. 地域社会はもとより広く国際社会へ環境情報を 開示し、社会との連携と協力に努める。 6. 環境教育を通して、バルカーグループ全構成員の 環境憲章の理解と、環境に関する意識向上を図る。

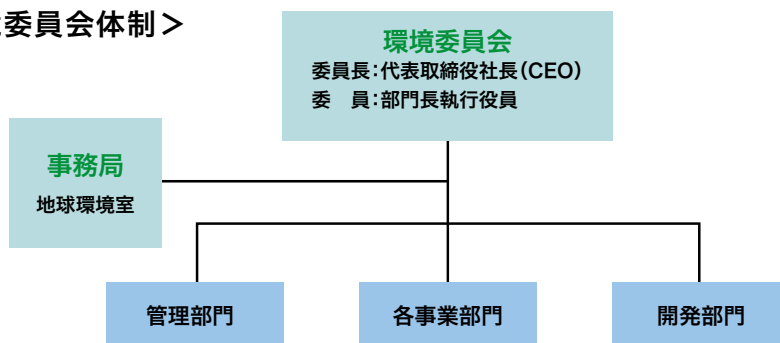
バルカーグループは環境理念・環境方針からなる「環境憲章」を定め、中期計画の経営基本方針、各年度のAnnual Policyに基づき、環境委員会にて重点項目を審議し活動を強化しています。

2013年度の環境活動方針に基づき、以下の3点を重点事項とし、それぞれの活動を強化推進しました。

- 収益向上に資するため、合理化活動の環境負荷低減効果(CO₂、廃棄物)の刈り取りと環境など成長分野への展開
- ISO14001マネジメントシステム強化による環境リスクマネジメントの強化
- 各活動成果、効果の外部発信によるCSRの推進

また、環境憲章に掲げた項目を展開する最高意思決定機関としてCEOを委員長とした「環境委員会」を設置しています。委員会で決定し見直しを行った方針や施策は、速やかに各部門に落とし込み、展開しています。

<環境委員会体制>



●各部門のミッション

- * 国内外の法律・規則などの遵守
- * 他産業および社会との連携を図り、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供
- * 省資源・省エネルギー・廃棄物削減および環境汚染リスクの回避
- * 地域・国際社会へ環境情報を開示し、社会との連携と協力に務める
- * 環境教育の徹底、全従業員の環境意識向上

環境負荷の把握と低減

バルカーグループは、生産関係会社、国内非生産事業所で事業活動におけるCO₂排出量の削減および廃棄物の3R(Reduce・Reuse・Recycle)に取り組んでいます。特にCO₂排出量、廃棄物発生量ともに全体の9割以上を占める生産関係会社については、削減計画、進捗監視を強化し、目標達成に向け取り組んでいます。

また、生産関係会社それぞれの所在地域(国)、事業内

容・規模、所有する設備などに応じて、化学物質の排出管理、水資源の有効活用、大気汚染・水質汚濁に関する監視を継続して行っています。

さらに本年度より、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を把握し、削減の可能性を見つけることが重要になっていることから、環境省の支援を受けScope3の把握の取り組みを始めました。

●地球温暖化防止・廃棄物削減の取り組み

生産関係会社では、期首に合理化・原価低減テーマから環境効果を積み上げ、効率改善※の目標値を設定しました。国内非生産事業所では、省エネ・ゴミ削減活動の目標値を設定しました。期中の進捗管理で、生産ライン改変や製造

品目の変動、合理化・原価低減テーマの追加や気候変動の影響から、大幅に目標を達成することが判明したため、目標値を上方修正し活動を続けました。

※効率改善：生産部門では、エネルギー使用量(≒CO₂発生量)や廃棄物発生量の前年度の原単位をもとに、当年度の生産量に応じた使用量(発生量)の予測を立て、その予測に対する効率改善に必要な削減計画を立てて目標達成に取り組んでいます。

▼地球温暖化防止・廃棄物発生量削減 目標と実績

	対象範囲	目 標	実 績	2014年度 目標
地球温暖化防止	生産関係会社 (国内外)	CO ₂ 排出量 480t削減 (2013年度排出量予測の2%相当分) →上方修正995t削減(7%相当分)	1,124t削減 (2013年度排出量予測の9%相当分)	926t削減対策実施 (2014年度排出量予測の4%相当分)
	国内主要 非生産事業所	電気使用量 26,000kWh削減 (2012年度使用量の2%相当分)	55,781kWh削減 (2012年度使用量の4%相当分)	10,900kWh削減対策実施 (2013年度使用量の1%相当分)
廃棄物発生量削減	生産関係会社 (国内外)	廃棄物発生量 35t削減 (2013年度発生量予測の3%相当分) →上方修正200t削減(15%相当分)	266t削減 (2013年度発生量予測の15%相当分)	100tの削減対策実施 (2014年度発生量予測の7%相当分)
	国内主要 非生産事業所	廃棄物発生量 230kg削減 (2012年度発生量の1%相当分)	1,661kg削減 (2012年度発生量の9%相当分)	174kg削減 (2013年度発生量の1%相当分)

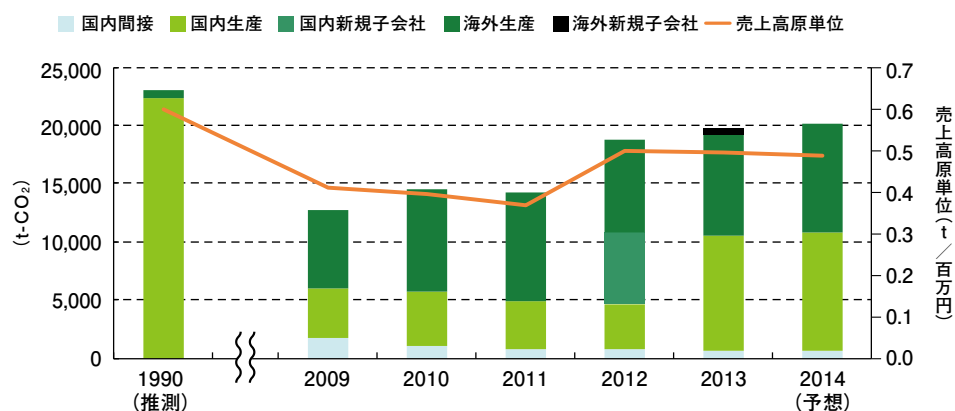
(2013年度の主な施策)

【CO₂削減】……節電対策、省エネ器具への切替／生産エリアの集約／LEDライトへの変更による使用電力量削減／ハイブリッド車への更新によるガソリン削減 など

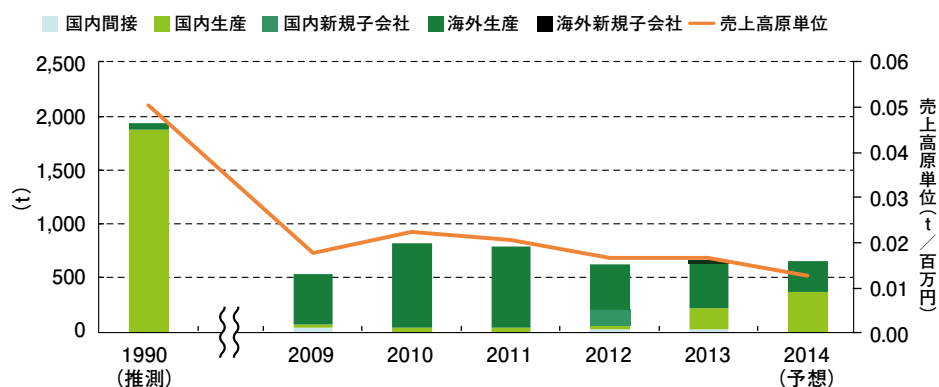
【廃棄物削減】…製造方法改善による歩留まり改善／研磨粉末の再利用／不良率低減 など

▼CO₂排出量および廃棄物最終処分量の推移

● CO₂排出量推移(生産部門+間接部門)



● 廃棄物最終処分量推移(生産部門+間接部門)



● CO₂排出量および廃棄物最終処分量の推移

前ページ記載のとおり、生産部門、間接部門それぞれに毎年、前年比の目標値を設定し、国内外すべての生産関係会社と国内主要事業所の環境負荷を把握し活動しています。

●化学物質の排出管理

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)に基づき、国内生産関係会社では対象となる化学物質の年間排出量を調査・把握し、国に報告しています。海外生産関係会社においても、所在国の同様の法規制に基づき報告を行っています。

それぞれ関係会社において、著しい環境側面と捉えられたものについて、使用量・排出量削減に取り組んでいます。

項 目	目 標	実 績
混酸	排出量13.22g/wf (※wf=ウエハ1枚あたり)	9.42g/wf
ジクロロメタン	年間使用量4,664kg以下	4,000kg

●水資源の有効活用

バルカーグループでは、特に水資源が乏しい地域での生産活動は行っていないが、世界的に貴重な資源であることから、使用量の把握を行っています。

生産工程で水を多用する生産関係会社では、個々の施策で水使用量削減に取り組んでいます。

施 策	効 果
試験水の再利用	水道料金として42千円削減
クーリングタワーの漏水是正	約3,000m ³ /年(想定)
ストレージタンク揚水ポンプ更新、退社時の水道管元栓バルブ閉めの徹底、成形加工機の水圧用タンク集約、老朽水道配管のメンテナンスなど	月平均使用量約30%削減



●大気汚染・水質汚濁に関する管理

大気汚染防止法、水質汚濁防止法に基づき、法規制の対象となる生産関係会社では、SOx、NOx、ばいじん、COD、BOD、SS、pHなどの監視を行っています。

法規制より厳しい値で、所在する自治体との協定を結ん

でいる生産関係会社もありますが、全て基準値を下回る排出であることから、特に削減・発生抑制などの施策をとっている生産関係会社はありません。引き続き大気汚染の予防、水質汚濁の予防に努めます。

●Scope3算定（サプライチェーンの温室効果ガス算定）

自社の事業活動による温室効果ガスの排出量（Scope1、Scope2）に加え、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を把握し、削減の可能性を見つけることが重要になっています。

バルカーグループでは環境省の実施する「環境情報開示基盤整備に向けたサプライチェーン温室効果ガス排出量算定支援」に参加し、2013年度の排出について「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出算定に関する基本ガ

イドラインVer2.1」（環境省・経済産業省）に準拠した算定に取り組みました。

その結果8カテゴリについて算定、3カテゴリは事業内容から非該当、4カテゴリについては活動量の把握が困難なため未算定となりました。今後、実際の算定数値の検証、未算定のカテゴリについて該当・非該当の見極めと影響の大きいカテゴリについてCO₂削減にどのように取り組むか、検討を行っていきます。

環境に貢献する製品・サービス

バルカーの主力製品であるシール製品は、液体や気体を漏洩させない性能を持つため、それ自体が環境に優しい製品ということができます。しかし、多くの製品は装置や設備の部品として使用されるため、製品自体

に環境負荷低減や環境貢献の機能差別性を持たせることは容易ではありません。そのため、社内外に直接もしくは間接的な環境配慮および貢献効果のある製品の創出や事業展開を図っています。

リスクマネジメントの強化

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施していますが、特に法令管理について、運用レベル評価を実施し、弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置により違反の未然防止を強化しています。

今年度は作業環境測定について改善事項が発見されましたが、即座に是正するとともに生産関係会社各社に横展開を行い、同様の事例がないことを確認の上、マニュアルの改訂など是正措置を講じ、グループ全体に

運用強化の徹底を図っています。

なお、悪臭、騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

また、世界的に管理強化が求められてきている製品含有化学物質については、引き続き法規制遵守の観点から定めた、規則・手順・自主基準の運用、製品設計、開発、調達、生産の全段階における、原材料に遡った確認、情報の一元管理と同時に禁止物質を含有させない管理を運用中です。

Voice

地球環境室
室長
砂川 里美



バルカーグループでは、地球温暖化防止の活動として、CO₂の直接排出（Scope1）エネルギー起源の間接排出（Scope2）の削減活動を継続していますが、このたびScope3というサプライチェーンの温室効果ガス算定に初めて取り組みました。

現状は集計を開始したばかりで、具体的な対策には至っていませんが、地球温暖化防止の観点から、大きな影響のある部分に取り組む必要があることを認識し、将来的にはサプライチェーン全体を俯瞰した環境負荷の低減を図っていきたいと考えています。



安全・品質への取り組み

バルカーグループは、お客さまに安全で安心な製品・サービスを提供するため、「製品の品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」の『4つの品質』を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。

また、「安全衛生は全てに優先する」との行動指針に基づき、安全な操業を行うための取り組みを徹底しています。

品質保証体制と方針

グローバルな品質保証体制の一環として、グループ全体の品質全般を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。メンバーは、国内外の生産子会社や販売子会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発、経営管理、人材開発など、品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に関して責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

バルカーグループは、「品質方針」に基づいて関連する法規制を遵守するとともに、お客さまの要求に合致した品質で安全な製品とサービスの提供をするため、組織ならびに社員一人ひとりが具体的目標を掲げ品質向上活動に取り組んでいます。

バルカーグループの品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品の品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を保証する。

〈4つの品質〉

- 製品とサービスの品質
- 製品とサービスをつくりだすプロセスの品質
- 製品とサービスをつくりだす組織の品質
- 組織を構成する人の品質

品質マネジメントシステムの運営

従来の生産子会社での認証取得に加え、営業部門を対象としてISO9001の認定を取得しました。これにより、グループをあげて業務品質の一層の向上を図っていきます。また、さらなる品質強化のために内部監査を

積極的に展開するとともに、事業部門の品質管理部が生産子会社および製造委託協力会社に対して指導・監査を実施し、品質レベルの向上に繋げるべく活動を推進しています。

バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループの全工場、事務所で安全衛生大会を開催しています。全社員がそれぞれの職場で、グループ安全衛生憲章・グループ安全衛生方針を唱和し、安全衛生への誓いを新たにしています。



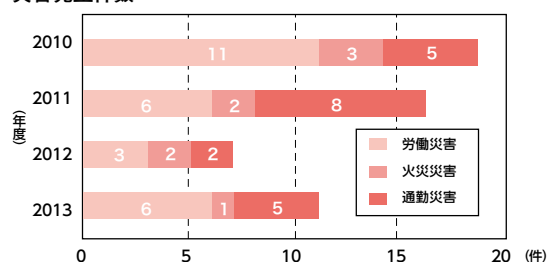
上海バルカーにおける安全衛生の日

安全衛生推進活動

2013年度は、特に死亡・後遺障害のような重大災害に繋がるリスクを徹底的に発見・予防し、重大災害ゼロを目標とした活動を推進しました。

また、衛生・健康管理の啓蒙活動ならびに従業員の健康作りにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場作りを積極的に推進し、安全衛生に関するリスクの低減を図っています。

災害発生件数



バルカーグループ安全衛生憲章

バルカーグループは「安全衛生は全てに優先する」ことをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任の下、グループ一丸となって安全衛生活動に取り組む

バルカーグループ安全衛生方針

安全衛生憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、安全衛生活動を実践する

- ① 5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、大会を実施し、社員の安全衛生に対する意識の高揚および、無災害と心身の健康維持に向けての活動の起点とする
- ② グループの安全衛生に関わる管理体制の強化、維持向上を図る
- ③ 安全衛生を確保するため、関係法令・社内の規則などを遵守するとともに、問題意識を持って迅速且つ的確な改善を行う
- ④ 徹底した教育訓練のもと、安全衛生に関するリスクの低減に努める

I

労働安全衛生の確保

～安全で衛生的な職場環境を維持～

①安全衛生意識の向上

安全衛生意識を根付かせるため、朝礼時に安全衛生憲章・安全衛生方針・グループ安全衛生標語の唱和および注意喚起を行い、終礼時にはヒヤリハット提案をもとにした問題点の抽出を行っています。

②安全衛生パトロール

定期的に安全衛生委員によるパトロールを実施し、不安全作業や不安全箇所の抽出と対策を推進するとともに、不安全箇所の抽出スキルの向上を図り、安全教育を実施しています。

③ヒヤリハット提案活動

災害や事故に至らなかったものの、日常業務のなかでヒヤリとしたり、ハッとした事例を提案し、危険箇所に対する安全対策を行っています。2013年度の提案件数と対策率は、前年度を上回り、無災害に対する意識が高まっています。

④リスクアセスメント活動

生産現場および安全リスクのある部門を対象に、全てのリスクを洗い出し、その重篤度や発生の可能性を踏まえ、優先度に従って安全対策を実施する活動を行っています。

⑤法令遵守の徹底

職場環境(安全・衛生)関係法規の周知と統制強化を図り、安全衛生体制に基づき、主管部門のミッション、具体的役割、各主管部門の責任者ならびに各事業所の責任者を明確化し、組織的に活動推進する体制を整備しています。

II

従業員の健康づくり

～従業員の心身の健康維持のために～

①健康診断の実施

定期健康診断や海外駐在者の帰国時健康検査を実施し、受診率は100%となっています。また、産業医による健康相談を定期的の実施し、社員の健康増進を図っています。

②喫煙対策

社会的にも禁煙への気運が高まるなか、各職場において禁煙啓蒙活動を推進し、徐々に喫煙率が低下しています。

③インフルエンザ対策

予防接種の奨励や、各拠点における安全衛生対策(手洗い・うがいの励行、マスク着用、入館管理などの感染予防策)により、グループ全体で感染者の低減に努めています。

④メンタルヘルスケア

バルカーグループでは、ストレスマネジメント検査が行える専門サイトを開設し、定期的な検査を実施しています。また、相談窓口を設置し、相談やカウンセリングを気軽に受けられる環境を整えています。

⑤作業環境の管理

トイレの衛生管理を含めた、健全で健康的な作業環境を維持するための活動を行っています。



社会貢献活動

バルカーグループは、社会を構成する一員としての責任を果たすべく、グローバルな視点で、地域に根ざした貢献活動を自主的かつ積極的に推進しています。より豊かな地域社会を築き、世界中の人々と感動を分かち合うために私たちは何ができるかを、私たちを取り巻く全ての人々と共に考え、自ら進んで行動していくことを推奨しています。

●世界中で取り組む社会貢献活動「バルカー感謝の日」

毎年秋の休日を「バルカー感謝の日」と定め、世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域周辺の清掃や募金活動など、地域への貢献を目的としたボランティア活動を続けています。2013年度は、36カ所で行いました。



総勢360名が地域沿道の清掃活動に参加(中国三社合同)

清掃や募金活動など、地域への貢献を目的としたボランティア活動を続けています。2013年度は、36カ所で行いました。

●東日本大震災被災地への復興支援活動

廃棄される古紙や不要となった書籍・CD・DVD・ゲームなどを回収し、各NPO法人に寄付する活動を行っています。その寄付金は、被災地 宮城県女川町のインフラ整備や東北3県(岩手・宮城・福島)の被災地を走る移動図書館用の本の購入に役立てられています。



古紙の搬出作業

●ユニセフ募金活動

世界中の子どもたちの健やかな成長を願って、ユニセフを通じた世界の子子どもたちへの支援活動を続けています。継続的な募金活動に加え、社内チャリティーバザーの実施や、自動販売機のおつり募金の開始により、募金活動の活性化を図っています。



社内チャリティーバザー

●ボランティア活動の推進

活動情報の共有とCSRの社内浸透を目的として、総務部が中心となってボランティア活動報告書を定期的に制作し、社内イントラネットで公開しています。

今後もグループ全体で息の長い活動を続けていきます。



ボランティア活動報告書

●スポーツ振興支援(ボールルームダンス支援)

人々の心に多くの感動を生みだすスポーツの振興と健全な社会づくりを応援するバルカーは、室内自転車競技の支援が一段落したことにより、生涯スポーツとして幅広い世代に親しまれている「ボールルームダンス」への支援を開始しました。

未来を担う子どもたちの健全な成長を応援し、世界に羽ばたく選手の育成のため、2014年8月に開催されたジュニア・ユース世代の全国選手権大会を協賛。2015年も主要国内大会への支援を予定しています。



ダンスを通じて子どもたちの健やかな成長に寄与

ワルツやタンゴなどを日本では長く社交ダンスと呼んできましたが、正式には「ボールルームダンス」と言います。その一番の特徴はペアダンスであること。そして体力と目的に合わせて幅広い年代が楽しめる生涯スポーツであり、競技スポーツであり、日本には沢山の愛好家があります。若年層への普及は大きな課題ですが、平成24年に中学校の体育でダンスが必修になり、少しずつ環境が整うなか、「小・中・高校生ボールルームダンス・全日本チャンピオンシップ」にバルカーグループの協賛が実現しました。

心身の成長期にある子どもたちにとってボールルームダンスは、相手との心地良い距離感をつかんだり、相手を尊重することを自然に学べる、教育的効果の高いスポーツです。バルカーと良いパートナーシップを築きながら、未来を担う子どもたちの健やかな育成と日本の競技力の向上に邁進し、本大会を世界選手権の登竜門として育てて参りたいと願っております。

公益財団法人 日本ボールルームダンス連盟 副会長・専務理事 西坂 範之様

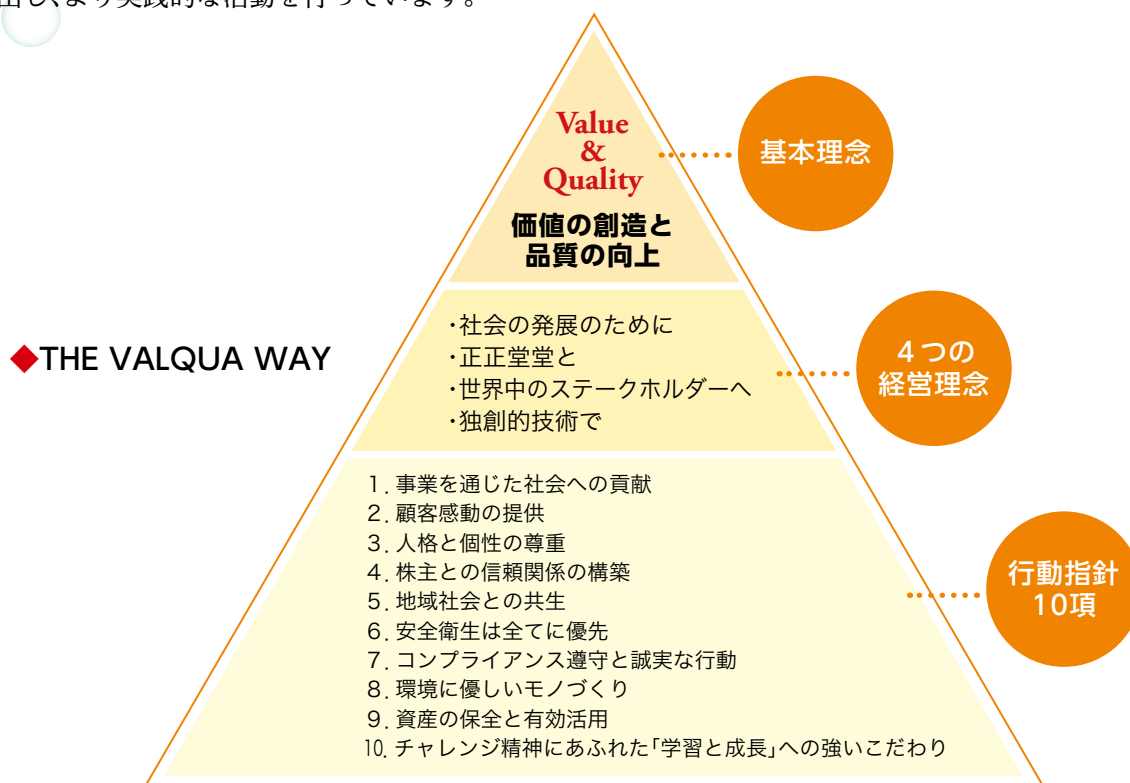




バルカーグループのCSR

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに社員が理解し実践しやすくした4つの「経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、当社グループのCSRの基盤となっています。

また、2007年をCSR元年と位置づけ、「THE VALQUA WAY」を基盤に当社グループ独自のCSRコンセプトを打ち出し、より実践的な活動を行っています。



〔バルカーグループのCSRコンセプト〕

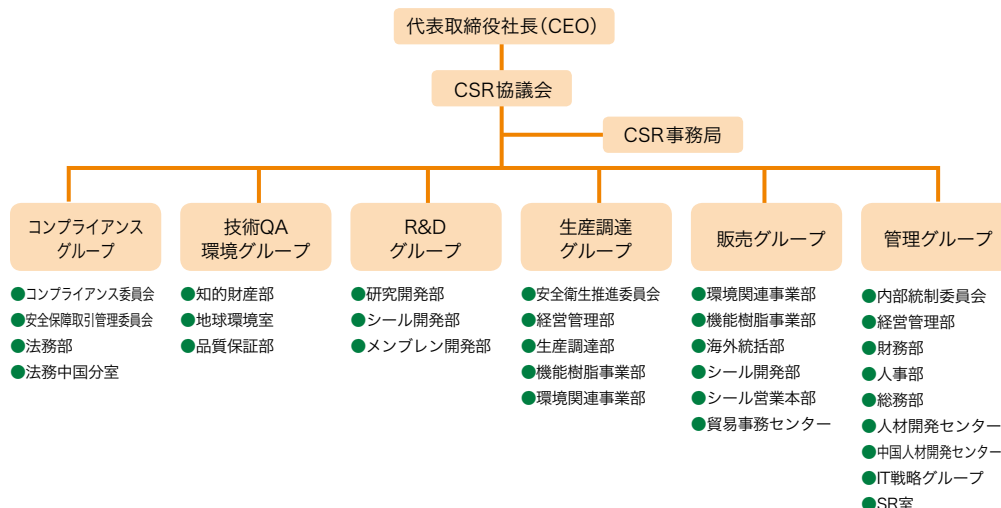
バルカー独自の社会的貢献を意識した実践的な取り組みを実現すべく、3つのコンセプトに重点を置いて活動を推進しています。



〔CSR活動推進体制〕

積極的かつ確実な実行を担保するため、各活動をラインに取り込み、推進責任についても併せ明確化しています。

またCSR活動全体の整合性を確保し、横展開を促進するため、6名の執行役員から成る「CSR協議会」を設けています。

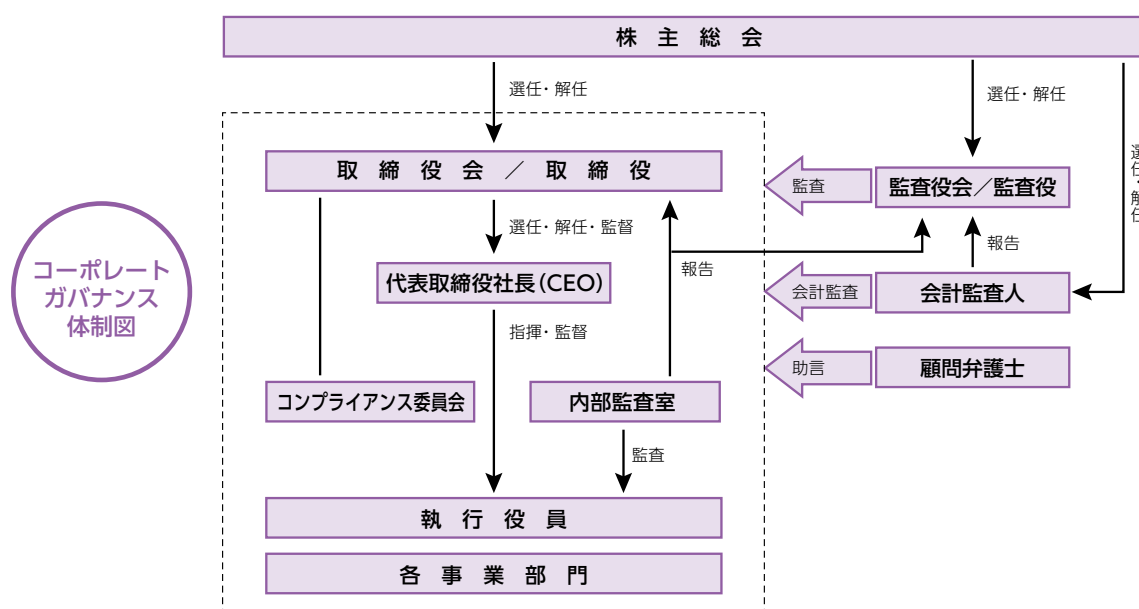




CSRマネジメント体制

【コーポレートガバナンス】

バルカーグループは、経営全般の効率性の向上、意思決定や執行における適法性・妥当性の確保、これらを監視・是正するシステムの強化など、コーポレートガバナンス体制の整備強化に努め、公正かつ透明性のある企業活動を実現し、社会的責任を全うすることを経営の重要課題として位置づけています。



●取締役会

バルカーグループは、執行役員制度を導入し、取締役会と執行役員の役割を分離したグループ経営体制を確立しています。取締役会はグループ全体の意思決定および監督機関と位置付け、取締役会が決定した経営方針・戦略に従い執行役員が業務遂行の責任を負っています。なお、現取締役会は、取締役4名（うち社外取締役1名）によって構成されています。

●監査役会

監査役会は、取締役会、常務会、その他重要な会議に出席する他、重要な決裁書類の閲覧などにより、取締役および執行役員の業務執行につき監査を行い、経営に対する監視、

監督機能を果たしています。また、監査役は、会計監査人および内部監査室と積極的に情報交換を行っており、それぞれの監査機能の実行性を高めています。なお、現監査役会は、常勤監査役1名、非常勤監査役3名（内、社外監査役2名）の4名で構成されています。

●内部監査

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価、提言を行っています。

【内部統制】

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築し、内部統制システムの整備・推進に努めています。

会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容については外部環境、内部環境の変化に応じて適宜見直しを行っています。

また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規程

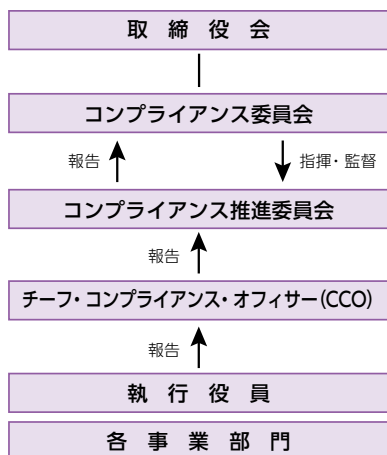
や業務プロセスの整備、評価、改善を行っています。2013年度においては、財務報告は有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を得た上で開示しました。引き続き財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続します。

【コンプライアンス】

バルカーグループは、法令や企業倫理などの社会規範と調和しながら適正かつ健全な企業活動を行っていくことが、最も基本的であり、かつ重要な事項であると考えています。基本理念である「THE VALQUA WAY」に基づく行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

●コンプライアンス体制

取締役を構成メンバーとするコンプライアンス委員会、執行役員を構成メンバーとするコンプライアンス推進委員会を設置し、



2007年にコンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO)」を中心にグループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

●報告・相談・通報ルート

社員が法令や社内規則違反などを報告し、相談し、通報できる仕組みとして、社外の弁護士に直接通報・相談できる通報制度と、外部委託機関が運営する「企業倫理ホットライン」(日本語、英語、中国語対応)を設けています。さらに、社員が自由闊達に建設的な意見を述べあえ風通しのよい風土づくりを目指して、バルカーグループ全てのオフィ

スに「意見箱」を設置しています。また、2009年9月には、経営トップ(CEO)と直接電子メールでコミュニケーションできるツールとして「CEOダイレクトライン」を設置するなど、複数の報告・相談・通報ルートを設けています。これらの制度については、通常の指揮命令系統から独立して運営されており、情報が秘匿され、また報告・相談・通報したことによって社員に不利益とならないように運用されています。

●社員教育

法務部および外部講師によるコンプライアンスセミナーを、新人から管理職まで階層別に毎年実施しています(2013年度受講者:国内外グループ社員718名)。なお現在受講者の約6割が中国をはじめとする日本以外で働く社員であり、海外展開の加速にあわせたグローバルなコンプライアンス教育にも力を入れています。

また、職場ごとにコンプライアンス推進責任者を任命しており、コンプライアンスチェックリストを通じたリスク低減対策を行うなど、職場単位での自主的なコンプライアンス推進活動に取り組んでいます。

その他、コンプライアンスにかかわる身近でタイムリーな話題を取り上げたリーガルニュースを隔月発行し、イントラネットに掲載することで社員への啓発を図っています。

【リスクマネジメント】

事業活動を遂行する上で生じうるリスクを的確に把握し、リスクの発生を低下させるとともに、発生した場合でもその損失を最小限に止め、事業の継続性・安定性を図るリスク管理体制を構築しています。

●業務リスク管理体制

「危機管理規程」に基づき、自然災害などグループに重大な影響が及ぶ事態が発生した際に、被害を可能な限り軽減し、早期に復旧するための基本方針および体制を定めています。

●中国リスク管理委員会

中国事業におけるリスクに特化した管理体制を構築するため「中国リスク管理委員会」を設け、中国特有の事業リスクを評価し、分析を行い、重要なリスクについては必要な対策を施すなど、リスク低減に努めています。

Voice



中国法務分室
朱 曉音

中国法務分室では、本社の法務部門と一体となって中国コンプライアンス体制の構築や改善に力を注いでいます。コンプライアンス研修教育は、現地法人の幹部社員から一般社員の各レベルに合わせた研修を実施してきた結果、最近では「これはコンプライアンス上問題がないだろうか」という問合せが増え、意識が定着してきたと感じています。

また、中国における新しい法律制度改正の動向や、最近の中国監督官庁の検査事例などを踏まえ、当局との調整や中国現地法人への改善提案、実行のサポートも行っています。スピードを要求される一方、当局との調整には時間がかかるものも多く骨が折れますが、常に現場目線をもって対応することを心がけながら、バルカーの中国市場向け事業に大いに役に立ちたいという夢と理想を持って、日々の業務に邁進しています。

会社概要

日本バルカー工業株式会社

本 社 : 〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階
創 業 : 昭和2年1月21日
設 立 : 昭和7年4月8日
資 本 金 : 13,957百万円
上場証券取引所 : 東京証券取引所市場第一部
従 業 員 数 : 428名(グループでは1,583名) <2014年12月現在>
事 業 内 容 : 産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空
産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど
各種素材製品を設計、製造、加工および販売



国内ネットワーク

●本社(大崎事業所)

〒141-6024
東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24F
TEL (03) 5434-7370 FAX (03) 5436-0560

●事業所

大阪事業所
〒550-0002
大阪府大阪市西区江戸堀1-25-15 バルカー大阪ビル
TEL (06) 6443-5221 FAX (06) 6448-1019
奈良事業所
〒637-0014
奈良県五條市住川町 テクノパーク・なら工業団地5-2
TEL (0747) 26-3330 FAX (0747) 26-3340

●製造・研究開発・人材開発

M・R・Tセンター
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2
TEL (042) 798-6770 FAX (042) 798-1040

●営業所

札幌営業所	仙台営業所	日立営業所	京浜営業所
豊田営業所	名古屋営業所	岡山営業所	中国営業所
周南営業所	松山営業所	北九州営業所	長崎営業所

●駐在所

四日市／宇部／大分／熊本

●販売拠点

株式会社バルカーエスイーエス(千葉／茨城)
株式会社バルカーテクノ(東京／大阪／広島)
バルカー・ガーロック・ジャパン株式会社(東京)
バルメイ株式会社(東京)

●製造拠点

株式会社バルカー シール ソリューションズ(奈良)
株式会社バルカーエラストマー(福島)
バルカーセイキ株式会社(愛知)
九州バルカー株式会社(福岡)
バルカー・イイダテクノロジ株式会社(大阪／千葉)

●販売・製造拠点

株式会社バルカー・エフエフティ(東京／長崎)

●研究開発拠点

日本バルカー工業株式会社(東京／奈良)

海外ネットワーク

●中国

・SHANGHAI VALQUA FLUOROCARBON PRODUCTS CO.,LTD.
・VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO.,LTD.
・VALQUA(SHANGHAI)TRADING CO.,LTD.

■研究開発・人材開発拠点

・VALQUA CHINA RESEARCH INSTITUTE
CHINA SEAL INSTITUTE CHINA MEMBRANE INSTITUTE
・CHINA HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER

●韓国

・VALQUA KOREA CO.,LTD.
HEAD OFFICE ULSAN OFFICE
PYEONGTAEK FACTORY

●アメリカ

・VALQUA AMERICA,INC.
HEAD OFFICE TEXAS OFFICE

●台湾

・TAIWAN VALQUA INDUSTRIES,LTD.
・TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL,LTD.
HEAD OFFICE HSINCHU OFFICE
KAOHSIUNG FACTORY

●タイ

・VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD.
HEAD OFFICE BANGPOO FACTORY
RAYONG FACTORY

●シンガポール

・VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD.
SINGAPORE BRANCH

●ベトナム

・VALQUA VIETNAM CO., LTD.

TOP MESSAGE	2
-------------------	---

バルカーブランドと社会とのかかわり.....	4
------------------------	---

特集① グローバル人材育成	6
------------------------	---



特集② 地球に優しい技術で 環境問題の解決へ	8
------------------------------------	---



特集③ シールエンジニアリングで 顧客の期待に応える	10
--	----



グローバル各社のCSRへの取り組み	12
-------------------------	----

各種取り組み

人材育成と職場環境づくり.....	14
環境への取り組み.....	16
安全・品質への取り組み.....	20
社会貢献活動.....	22
バルカーグループのCSR.....	23
CSRマネジメント体制.....	24

会社概要・ネットワーク.....	26
------------------	----

- 対象期間 2013年4月～2014年3月
(報告の一部に2014年4月以降の活動と取り組み内容も含まれます)
- 対象範囲 日本バルカー工業株式会社およびグループ会社
- 発行 2015年2月



VALQUA GROUP CSR REPORT 2014

Value & Quality

【表紙について】 バルカーグループは、シールエンジニアリングを通じて安心・安全な社会づくりを目指しています。企業としての責任を果たし、地球環境を守ることで、子どもたちの夢いっぱいの未来を大切にしたい。その思いを込めて、グループ社員の子どもの笑顔で表紙を飾りました。

 **日本バルカー工業株式会社**

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
 URL <http://www.valqua.co.jp>
 お問い合わせ先：SR室 TEL03-5434-7372 FAX 03-5436-0560

